

労災保険で備えを

県は、5月24日から7月10日までをサクランボ作業事故防止運動強化期間とし、JAグループ山形などと連携して啓発力を入れている。JAグループ山形は、1日から山形放送の朝のラジオで交通安全と農作業事故防止を呼び掛ける一方、万への備えとして、農業者に労災保険とJA共済への加入を勧めている。労災保険には、3月末までに県全体で251人が加入し、さらなる普及拡大に努める。

JAグループ山形

農業者は、一定の要件があれば労災保険に特別加入できる。

加入対象となるのは、動力機械やトラックを使用中の事故や高所など危険作業などの特定農作業に従事者と、指定農業機械などの作業従事者、年100日以上、労働者を雇

用する中小事業主と一緒に作業中の人などだ。

JAグループ山形地域は、担い手サポートセンターは、JAグループ山形第3次長期農業振興戦略の一環として、希望する全ての農業者が労災保険に加入できるように、2016年から各JAでの加

入環境の整備を支援している。酒田、山形の社会保険労務士事務所と提携し、指定農作業機械従事者や特定農作業従事者の加入窓口となる労災保険特別加入団体の立ち上げなどを支援。これまでに15JAのうち13JAで加入環境が整い、3月末現在で、庄内で218人、内陸で33人が加入している。

全ての農作業事故が労災保険の保障対象となるわけではないことから、より万全な保障に向け、JA共済への加入推進にも力を入れる。

サポーターセンターでは、さらなる加入推進に向け、加入環境の整備などを進めるとともに、最上と村山地区で夏にもJA主催の加入説明会を開く方向で調整を進めている。

251人加入 共済と併せ普及

問い合わせは地域・担い手サポートセンター、電話023(634)8114。